

# 隠れ水俣病

## 第三部

<6>

「認定」から「診断」へ  
「いやあ、公認になった。なにせ、やりやすくなつた。勇気だつて、一つにしろなさい。いいし、水俣病かどうかの判断も、各人の意見をそのまま受けばいいんだから、審査も短時間でやれるし、初めからこんなふうにやつとけばよかった」

### 審査会の出直し

県への審判を翌日、に控えた四日、徳臣比古水俣病認定審査会長(船大第一内科教授)は、防れぬれしたよな口調で語った。

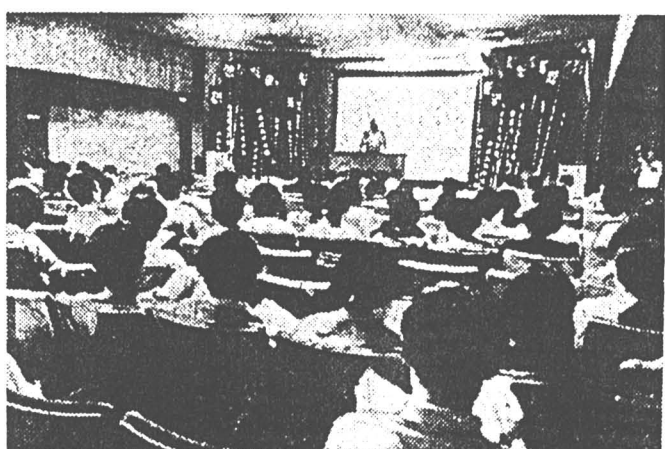
「認定」から「診断」へ  
「いやあ、公認になった。なにせ、やりやすくなつた。勇気だつて、一つにしろなさい。いいし、水俣病かどうかの判断も、各人の意見をそのまま受けばいいんだから、審査も短時間でやれるし、初めからこんなふうにやつとけばよかった」

# 運営やつと正常に

## 認定も新たな概念で

その注文をつけたうえで答申させ、批判だったが、次第にその代表である、市民会議の人々のきびしい形で、四島に押しつけるという。そしてそれは、批判から中絶「ショック」だったため、ボクは「徳臣氏は水俣病の権威どころ

「認定」から「診断」へ  
「いやあ、公認になった。なにせ、やりやすくなつた。勇気だつて、一つにしろなさい。いいし、水俣病かどうかの判断も、各人の意見をそのまま受けばいいんだから、審査も短時間でやれるし、初めからこんなふうにやつとけばよかった」



9月27日夜開かれた公害認定3周年討論集会。席上徳臣会長抗議行動が緊急動議として出された(県福祉会館で)

それまでは、いわゆる「被水俣病」といわれる「ハンター」ラッセル症候群」を下敷きにした水俣病概念に対する批判がおもで、それを受けて、支援団体は「きびしい認定基準」を攻撃目標にしてきた。ところが評議院委員の動きについて、支援団体は「メツツをぶさされたことに対する徳臣会長の恥知らずな名誉回復である」として、個人攻撃にエスカレート、「徳臣氏は水俣病の権威どころ

「認定」から「診断」へ  
「いやあ、公認になった。なにせ、やりやすくなつた。勇気だつて、一つにしろなさい。いいし、水俣病かどうかの判断も、各人の意見をそのまま受けばいいんだから、審査も短時間でやれるし、初めからこんなふうにやつとけばよかった」

「認定」から「診断」へ  
「いやあ、公認になった。なにせ、やりやすくなつた。勇気だつて、一つにしろなさい。いいし、水俣病かどうかの判断も、各人の意見をそのまま受けばいいんだから、審査も短時間でやれるし、初めからこんなふうにやつとけばよかった」